

団体/組織名：北海道鹿追町

(1) 応募の経緯・目的

鹿島建設株式会社との連携

- ・ 家畜ふん尿由来水素を活用した水素サプライチェーン実証事業 (平成27年度 地域連携・低炭素水素技術実証事業)
- ・ 令和2年10月 地域スマートソサエティ構想調印 (公民連携)
 - ①地域エネルギー供給事業
 - ②公共施設経営
 - ③防災、減災はBCP対策
 - ④ICTを利用したスマート化
 - ⑤地域産業振興



出典：鹿島建設株式会社ホームページ

応募の経緯

- ・ 令和元年度～ 北海道型ワーケーション導入検討・実証事業 (令和2年度～ 普及・展開事業)
- ・ 令和2年12月 「鹿追町が持続可能なまちへと進む提案」について意見交換
 コロナ禍における国内情勢、鹿追町の強み、鹿追町の課題を踏まえた鹿追町の「地域課題解決」への一歩を提案
- ・ 企業と連携した環境整備・受入の推進
 →目指す姿の一部：国立公園内ワーケーションの推進、市街地コワーキングスペースの推進
- ・ 町内最大の宿泊事業者もワーケーション受入について模索している中、契機ととらえ鹿追町が鹿島建設(株)に提案

応募の目的

- ①コロナ禍で激減した観光客の回復・誘導、長期滞在を行うワーケーション需要の取り込み
- ②環境分野における関係人口・交流人口の拡大、企業との連携による地域課題の解決

団体/組織名：北海道鹿追町

鹿追町の土壌

- ゼロカーボンシティ宣言（令和3年）
- 日本ジオパーク認定（平成25年）
- 大雪山国立公園、然別湖 など

鹿追町が目指すワーケーション

①ビジョン

「環境」といえば「鹿追町」、「環境」を学ぶなら鹿追町

②コンセプト

「環境のまち鹿追町」の実現に向け、「様々な環境※を体感できるワーケーションづくり」と設定

※様々な環境：ISO14001では組織が取り組むべき課題として以下の4つを掲載

- 環境を汚染させない
- 持続可能な資源の利用
- 気候変動の緩和と適応
- 生物多様性及び生態系の保護

③トライアルプログラムの設定

テーマ1：チームビルディング

テーマ2：地域の課題を解決する→課題解決能力を養う

テーマ3：環境教育、SDG's教育

(2) プログラムの内容



オンリーワンの目的型ワーケーション

- **10月：生態系（外来種防除）**
人手不足、資金不足
有効利活用
- **11月：エネルギー（バイオガス）**
持続可能な農業、まちづくり
- **1月：気候変動（しかりべつ湖コタン）**
人手不足、観光振興

団体/組織名：北海道鹿追町

気づき

- 本町におけるワーケーション導入の目的を改めて認識
→検討委員会での議論、先行地域・各モデル地域と同様な課題意識
- アフター・ウィズコロナ禍で短期的に観光振興につながっていくかは疑問
- 長期的な視点の必要性
(将来の観光振興の種まき、地域課題解決の糸口のほんのひとつ)

効果

鹿追町のビジョン・コンセプト・設定と参加者の感想の一致が見られる
→狙い通りの効果が出ていると言える

課題

- ①**企業におけるワーケーション実施の目的の整理**
ワーク+バケーション=ワーケーションの思考のリセットが必要では
- ②**企業のメリットをいかに受入地域から提案できるか**
効果測定、見える化
- ③**地域の課題の提示、地域課題解決に向けたロードマップ**
地域課題解決プログラムをいかに次につなげていくか
- ④**受入体制の構築とコンシェルジュ機能の必要性**
観光事業者が取り組むメリット
観光繁忙期と閑散期の調整
繁忙期における受入のメリットが少ない、シングルユース利用の希望

(3) 感想 (気づき・効果・課題)



チームビルディングの取り組み



地域課題解決ワークショップ